

拒絶の時代

箴言 27:9～10

マタイによる福音書 11:16～19

聖書には多くの人物が登場します。悪人がいれば、正しく生きようとする人もいます。しかし、いづれにしても、わたしたちと変わらない人間の姿を現しています。時には失敗があり、限界と弱さを持っている姿です。そして、もう一つは神様に選ばれた人たちの歩みは決して平坦ではなかったということです。自分の十字架を背負って主に従う道は、この世にいながらも、この世の価値観や考えに従うのではなく神の国と神の義を求めることから、違う面での試練があるということです。つまり、人々の拒絶を耐え忍ばなければならない孤独の道でもあるのです。しかし、この世の試練と苦しみだけならば、それは実りがないものですが、主によって出会う試練とは希望と約束に満ちている、祝された道であることを私たちは知っています。

今日朗読しました聖書の箇所の前部分を見ると、イエス様が洗礼者ヨハネについて「女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった」と言われたところがあります。偉大なる預言者ヨハネは神様からの救いを求めながら、それを確信し、清い生活を送りながら待ち望んでいました。神の国と義を強く求めていたのです。ついには、神様から送られたメシア、救い主イエスに出会い、この方こそメシアであることを確信して力強く証言したのです。しかし、その堂々たる姿であったヨハネは死を前にして苦悩し、信仰的にも葛藤をしていました。そのような姿が前のところに絵描かれています。

聖書はその話が続いてイエス様が語ったことを書き記しています。「11:13すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである」、つまり、主イエスは新しい時代の渡来を宣言されています。それにもかかわらず、人々はまったくそれに気づいていないので、「耳のある者は聞きなさい。」と強調するかのように、今の時代がどのようなものであるかを、たとえを通して話されています。「11:16 今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。17 『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、悲しんでくれなかった。』18 ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言ひ、19 人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

〈笛を吹いてやっても〉は子供たちの結婚式の遊び、〈葬式の歌を歌ってやっても〉は葬式遊びであります。当時の子供たちの遊びでありました。子供たちが笛を吹くと、ほかの子供たちは踊らなければならなかったのです。また、人びとが死者について行った嘆きを、子供たちが真似をすると、ほかの子供たちは同じように、悲しみの叫び声で答えなければならなかったのです。しかし、相手の子供たちが思い通りにしてくれなかったことに不満を持って言っているのです。なぜ、相手にしないのか。このようにすべきではないのか、と、人々に呼びかけている子供の様だと、人々の歪んでいて、頑なな心を叱っておられたのです。

このたとえば、バプテスマのヨハネが荒野で禁欲的な厳格な生活を送っていて、結婚式ごっこのようにこの世の快樂の生活を歌い望む人々に答えてくれないので、非難されたことをたとえて話されているのです。洗礼者ヨハネが、この世のすべてのものを投げ捨て、人々との交わりを避け、食べたり

飲んだりすることを問題としなかったことに人々が非難をしていたのです。結婚式ごっこをするかのように、人びとが笛を吹くのに、彼は踊らなかつたわけです。ヨハネがそれをしなかつたため、彼は悪魔に取りつかれているのに違いない、と人々は非難しました。

また、イエス様が来られると、葬式ごっこ、すなわち聖なる者なら悲しみに沈んでいるかのような、厳格な宗教生活を期待していたのです。しかし、イエス様が罪人たちと共に宴会席にいるし、普通の人々と変わらない様な生活を送っていることに、それは彼らが思っていたメシアのイメージに反したことであったので、人々はまた非難をしていたのです。

いずれにしても、自分たちの思いのままにならないのが不満であった人々の心を、当時の子供たちの遊びの歌にたとえておられたのです。

イエス様は、近づいて来る人々を離さず、かえってみんなどと一緒に生活し、彼らと共に食べたり飲んだりしていました。このようなイエス様の行いは、あまりにも人間的で、かえって彼らの律法を守らない、人たちの宗教的な考えには合わなかつたのです。聖なる者なら、このようにすべきではない、このようにしなければならないという自分たちの価値観に捕らえられ、神の子イエスの本当の姿、人間に対する深い憐れみを見ることができなかつたのです。

洗礼者ヨハネは禁欲的な生き方が問題で、また、イエス様に対しては、人々と変わらない人間的な生活が、彼らには非難の種でした。人間の自己中心的な心を、それで正しいことを知ることができない愚かさを、イエス様は指摘しておられたのです。真の知恵を失った人々の愚かさを問題にしておられたのです。自分の思いが中心になり、自分が良しと思えばそれでいい、聖なるものさえ、自分の思いに閉じ込めていたのです。神の主権の中の朽ちることがない永遠なることさえ、自分で判断し、自分で作ればよいのです。人たちはそれが知恵だと思っていました。

真の知恵を喪失しているのは今の時代も同じです。自分が中心になっている世界です。人間の限界を知らない愚かさです。イエス様は言われます。「知恵の正しさは、その働きによって証明される」

ヨハネが悔い改めの預言者として送られたこと、また神の子イエスが罪人の友として来られたことは、神の知恵によるものでした。その知恵の正しさの証明は、イエス様の生涯と十字架での死、復活で明らかになったのです。そして、神の子イエスに出会った者たちがどのように変えられたかが証明しているのです。子供共の遊びのように、自分たちに合わせてくれないことを訴えている人々の心は、かえって真理と愛を拒絶する高慢な心です。自分たちが仲良く通じているかのように遊び、共に生きていきたいと歌いながら、神の子を排斥する。真理を呼びかける人を非難する、かえって、そのようなかれらこそ拒絶の子であるのです。そのような拒絶の時代を私たちは生きています。イエス様がおられた時代と変わらない私たちの世界です。頑なな人々の心は自己中心になり、聖なるものを軽んじて非難し、拒否しています。

しかし、イエス様は屈することなく、そのような彼らさえ愛し、ご自身の歩むべき十字架の道を歩まれました。主に従った弟子たちも人々の迫害の中でも、命を惜しまず主が選んだ人々を捜し求めながら伝道に励みました。神の知恵を宣べ伝えたのです。そのような私たちにとって本当の友人とは誰でしょうか。主と共に生きる者です。真理に対して頑なな心を持って拒絶している時代を我们正在の私たちですが、真の隣人が与えられているのです。その隣人と手を繋いで、主の愛で支え合いながら、各々の十字架を背負って、主に従い続けていきたいと願います。私たちを非難し、拒絶する人々の心を開くために、神様の愛と知恵を伝えていきたいと願います。

主は言われました。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ16:33)